

令和3年6月1日

緑小だより

横浜市立緑小学校

6月号

ふれあい 学びあい みとめあう みどりっ子

mail y3midori@edu.city.yokohama.jp

URL <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/midori>

共に創りあげた体育発表会!!

学校長 能城 順一

令和3年度も、スタートしてからはや2ヶ月が過ぎ、6月を迎えることとなりました。先月5月22日(土)の体育発表会の際には、保護者の皆様に様々な形でお力添えをいただきました。お陰様で、不安定な天候の中ではありますが、無事に体育発表会を終えることができました。本当にありがとうございました。

今回、まん延防止等重点措置の延長に伴い、2部制の運動会を3部制の体育発表会に縮小することを決断するにあたって、校長としては悩みに悩みました。最も心配したのは、やはり子どもたちのモチベーションの低下です。赤組・白組が勝利を競い合う運動会から、得点を入れない体育発表会への変更、特別に練習を重ねてきた応援団・リレー・鼓笛隊等が活躍する場面も大幅に縮小される体育発表会への変更、毎日子どもたちの練習を見てきている私としては胸が痛むような決断でした。改めて校長の仕事とは『決める～決断する～』と感じた次第です。

しかし、そんな私の心配を本校の教師と子どもたちが吹き飛ばしてくれました。教師は、体育発表会となったなら「それなら最高の演技にしよう」と、子どもたちの指導にさらに学年チームで力を注ぎましたし、子どもたちはそんな教師の熱い思いに応えようと努力しました。そんな教師の思いと子どもたちで、共に演技を創りあげていく過程こそ「教育」であり、尊いものであります。特に今回は、22日の体育発表会本番の前に、保護者の方に自由に見ていただく「公開練習日」、全校の子どもたちで演技を見合う「全校発表会」と、2度の節目を置いたことも、子どもたちの意欲の高まりにつながったと感じています。どの学年の演技も、「公開練習日」「全校発表会」を経たことで、体育発表会本番で進化した最高の演技を発表することができたのでしょうか。この試みは、来年度にも生かしていきたいと考えています。

22日(土)12時頃に6年生の「緑小 ナンバーワン ソーラン!!」が始まろうとする時、会場の空気が一変しました。会場にいる全ての人が「緑小伝統のソーラン」の始まりを待っていました。緊張しているのは、演技する6年生だけではなく、見ている私たちにも、緊張感があるからこそ、あの静まりきった独特の空気になるのです。そんな空気の中、見事に「緑小 ナンバーワン ソーラン!!」を終えた6年生は、次のように振り返っています。

・今回「あきらめない」ということや「やればできる」ということを、先生方に教えてもらって、そのことはまだ頭の中に残っているので、今後もソーラン節の時の「あきらめない」という心をもって何事もやっていきたいです。

・皆と「協力すること」「努力すること」の大切さを知った。協力をすれば何事も成し遂げることができるし、努力をすればいつかは必ず報われるからだ。これからも、この二つのことを忘れずに生かしていきたい。これからも頑張るぞ!!

・1年生を圧倒したい。そう思い練習に臨んできた。その気持ちは伝わったようだ。「キレよく」「堂々と」「心をついに」を一気にクリアしなければならない。そういうプレッシャーに押されて校庭に裸足で立った時、なぜか「生きてる」と思った。生きてるから全力でやらなければ!理科で、人が生まれるのは「奇跡」と勉強したのだ。大切な命があるから、私は全力で踊った。

子どもたちが教師と共に創りあげた体育発表会、これからも緑小学校は「共に学ぶ」ことの楽しさややりがいを実感できるように教育活動を進めていきます。そして「ありがとうにあふれた緑小学校」を目指して教育活動を進めていきます。保護者の皆様・地域の皆様、引き続きのご支援を賜りますようお願い申し上げます。